

令和7年度 第2回学校関係者評価委員会 議事録

2026.03.23 書記：古川

<出席者>

[外部委員]

古川 雅英 新潟県菓子工業組合 専務理事
三島 茂 新潟県司厨士協会 名誉会長
山岸 貴 中央会計税理士法人 社員 会長 税理士
川上 啓介 株式会社シュルプリーズ ルーテシア 代表取締役
渡辺 建太 株式会社渡森 代表取締役社長
神子島 真 株式会社神子島製作所 専務取締役
伊藤 佑二 御料理 京相模

[学校委員]

渡辺 忠雄（理事長）
渡辺 弘子（学園長）
出塚 彩（校長）
阿部 正一（教頭）
渡辺 真理子（事業推進部長）

[事務局]

堀 慶

●開会挨拶

●副委員長挨拶

●自己評価結果

「自己評価結果」

（2）④ 「業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか」

大きくポイントを伸ばしている

職員の中で整備ができてきていると感じているのは良いこと

（4）③退学率の低減が図られているか」

通信制高校からの入学者が増えてきている。今や新潟県の10分の1が通信出身の学生。

集団生活や規則正しく通うことに慣れていない学生への働きかけをどうするか今一度考えたい。来年度に改善を図りたい。

（6）②「学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか」

大きく上がった。職場研修は今後も続けていきたい。

海外研修旅行も7年ぶりに行えた。学生の見聞を広げるためにも大事

（7）「学生の受け入れ募集」に関しては、全体的に下がっている

少子化が進んでいること、大学進学率を上げるために新潟県がはたらきかけていることも要因のひとつ。学生獲得はなんとか募集活動をしている。厳しい数値であることも事実。

「委員評価」

（神子島委員より）

近年はPMVVの方法で表現を行っている企業が多い。今後のさらなる発展のためにより深く学校について考えてみるのもいかがか。

（古川委員より）

職員の研修とは具体的にどのような内容のものか

- ・今年度はハラスメント講習、キャリアマップ(アプリを使った就職ツール)、サイバーセキュリティ対策講習に参加した。キャリアマップはアプリを使った就職ツール。

●令和7年度の学校運営、取り組みについて

令和7年度は、企業と連携した実践的教育を推進し、社会に求められる人材育成を目指した学校運営を行った。

その実現に向け、教職員が共通の方向性を持つことを重視し、自由に意見を出し合える職場環境づくりに努めることで組織的な運営体制を整えた。

加えて、理事会や各種委員会を通じて教育内容の改善や教職員の指導力向上、組織体制の強化に取り組み、教育の質向上を図った。これらの多様な取り組みにより、専門技術のみならず人間力や社会性を総合的に育成し、学生が夢を持ち挑戦し続けながら社会で活躍できる力を身につける一年となった。

●令和8年度重点目標について

通信高校に入学する子たちは「高校を卒業したい」という目標を持って来てくれる。

専門学校へ来る学生も、目標は何か聞き、その目標を達成するにはどうすれば良いか一人ひとりに寄り添って進めていけばよいのではないかと考える。

職員に対して、それを熟知してもらうことも大事。

●質疑応答

（三島委員）

座学の中で調理器具の話をする必要なのではないか

半分は機械化されている現場で、器具・機械の紹介もあって良い

（山岸委員）

昨今の学生の様子をこうして聞くと、実にみなさん大変なんだと感じる。

みなさんの努力に敬意を表したい。

（川上委員）

就職率の向上とはどうやって図っているのか？

（鈴木委員）

食の魅力を伝えることが課題だと感じている。

「お客さんに喜んでもらうことが作り手の喜びであるということ」を感じてもらう。

多様化が進む中、目的意識があまりない子にも、食品関係の仕事が楽しいことを伝えていきたい。

（川上委員）

離職率が高止まりしている現象はなかなか変えられない。

食への興味を刺激したいと思い現状を変えたいという気持ち。

（神子島委員）

生成AIについて。スマホ1つで何でもできる時代。

情報をマネジメントできるリテラシーをどう育むのが課題。システムエンジニアがリーダーをしてマネジメントができれば良いと思う。

（伊藤委員）

ドレスコードが分からない、体調不良の休み明けに挨拶をしない、そんな風に当たり前のことができない子が増えていると感じる。人間関係を円滑にする一言が言えないことに対して、上司として指摘せずに言わないことはある。そういったことも含めて授業で話ができたらいいなと思う。

（渡辺委員）

入学する学生の多様化について、これについて行けてないのが製菓・製パン・調理業界の課題になっていると思う。辞めずに卒業までもっていくためには多様性に対して職員や授業カリキュラムをどんな編成をするか。

また学校が今のSNSに対応する能力や、働き方におけるDXを特別な人材を育成するのが大事なのではないかな。

●閉会の言葉